

釧路湿原自然再生協議会
第 14 回再生普及小委員会
議事要旨(素案)

平成 21 年 12 月 17 日開催

■ **再生普及小委員会及び再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告について**

再生普及小委員会の開催及び活動状況について事務局より報告が行われ、引き続き事務局より再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告が行われた。その後委員による意見交換と検討が行われた。

委員

- 再生普及行動計画 WG が開催しているフィールドワークショップは、参加者同士が情報交換をしたり、それぞれの立場で色々なことを感じたり、大変意義のあることと感じる。今後、四季を通じた開催や、参加できる対象者を広げて欲しい、様々なフィールドに広げて欲しいといった意見も出ている。

委員

- 今回の知名度アンケートの調査に参加協力した。回答してくれる方は、自然再生協議会を知っている人や興味関心がある方の割合が多いと感じた。知らない人や関心がない人はアンケートから逃げてしまう。

■ **環境教育ワーキンググループの経過報告について**

環境教育ワーキンググループの活動報告として、釧路教育研究センターとの連携により温根内と下幌呂で実施した教員研修について事務局から説明があり、委員による意見交換が行われた。

事務局

- 教員研修では、現地での湿原に関する解説と環境教育への活用の仕方や位置づけということと同時に伝えることができたので、先生方も様々な観点から湿原について理解していただけたと思う。参加者のうち、66%の先生から今後の環境教育で是非実施したいまたは検討したいと回答していただいた。
- 来年度は2回ほど実施を予定している。

■ **第2期 釧路湿原自然再生普及行動計画(案)の検討について (その1)**

第2期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)の検討にあたり、第1期行動計画の評価結果について事務局から報告があり、その後委員による意見交換が行われた。

委員

- WG で討論されたことが反映されており評価として問題ない。
- 「参加する、行動する」ということについて、もっと市民を引き込む手段の一つとしてフィールドワークショップを活用していけるのではないか。

委員

- 自然再生事業の取り組みや活動を具体的にわかりやすく伝えていくことが必要である。

委員

- WG での討論に参加した。検討結果の報告として、行動計画の成果、課題、総括と今後の方向性についてとりまとめられており宜しい。

委員

- 説明を聞き、5年間の地道な行動の積み重ねが成果として現れていると感じた。
- 一般市民や新しい委員がもっと入れる方法があるともっと良い。

委員

- 裾の広がりが出てきたと感じるが、子どもたちにもっと参加する機会を与えるためにも学校教育の中でも広がりが出ると良い。

委員

- 学校教育を含んだ中で、子どもたちに対する働きかけに関する表現について、今後意識していかなければいけない。

委員

- 多くの団体と個人が参加しており、継続して参加してもらうためにも、その中で横の繋がりをさらに強くできるような仕組みが必要と考える。

委員

- 小中学校の教員にもっとアプローチすることが重要である。

委員

- 最終目標に近い所をもっと目に見える形にした方が、色々な人が関心をもって、どのような方向に行こうとかか自分は何が出来るのかとか、判断ができるのではないか。

委員

- 様々な分野の方が参加しているということは素晴らしい。今後、地元の人が継続して主体として行動していくにはどうしたら良いかということ個人的にも野鳥の会としても考えているところである。

委員

- 評価の表現として、文末に「期待される」という言い方が多い。官側と市民側との距離を離すような印象を受けた。

委員長

- 第一期行動計画は主語を明記していないことから、その評価に使用する表現はこれで良いのではないかという議論を行ったもの。ただ、第二期行動計画案は主語を意識した表現で作成している。第一期行動計画の評価にこの表現を用いることはご了解をいただきたい。

委員

- 「寄付も得られており協力者メリットを明確にすること」とあるが、具体的にはどのようなことを指しているか。
- 寄付の損金処理は出来るのか。

事務局

- 協力することのメリットとして、協力者の情報を発信するということと、フィールドワークショップに参加して湿原に対して深く理解する機会を得られるということを挙げてきている。
- 寄付金は受け付けているが、使い方は協議会の中でまだ同意されていない。

委員長

- 法人や企業がある活動に寄付をしたとしてそれに対して税の対象として優遇するというような制度が日本では実現していない。協力者が寄付をしたときに協議会として協力者のイメージアップなり出来るような事を保障したりすることで、制度の整備が進んでいくのではないか。

委員

- 10番「人・施設・地域のネットワークをつくる」の評価が「人、施設、団体のネットワークづくりに寄与できた」となっているが、なぜ「人・施設・地域」と表記を合わせないのか。

委員長

- 表記を合わせることを意識せずに議論をしていたが、意図は同じ。「地域」を具体化して「団体」をいう表記が出てきた。ご指摘の事項を反映させ、評価に「地域の」という言葉を入れて「地域の人、施設、団体の新たなネットワークづくりに寄与できた」としたい。

■ 第2期 釧路湿原自然再生普及行動計画(案)の検討について (その2)

第2期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)について事務局から説明が行われ、その後委員による検討が行われた。

委員長

- 第2期行動計画(案)の大きな改訂点として、第1期行動計画にある「10の行動計画」を3つの柱として再編したところが挙げられる。

委員

- 10があると広すぎるので3つにまとめるということはとても良い。集約的にすると他の団体も参加しやすいのではないか。

委員

- 3つにまとめて良い。
- 自分が取り組んでいるゴミ拾いなどの活動を通じて、不法投棄やポイ捨てが少なくなったと感じている。清掃活動をする団体も増えているだろうし、モラルが欠けている人も少なくなったという印象を受けている。この5年間の行動計画を通じた活動が少しずつ実を結んでいると感じている。

委員

- 3つにわかりやすく一目瞭然にまとめたということで、読む人にただ見るとか学ぶだけではなく、実際に今後どうしたらよいか、地域をどうつなぐのかという区分にいきやすくなると思う。

委員

- 良いと思う。
- 具体的な行動についても問題を今後提起していきたい。

委員

- 10がこの3つによくまとまっていると思う。

委員

- イメージが湧きやすくよくまとまっている。この通りいくように協力していきたい。

委員

- より具体的なことも必要であると考え。具体的な取り組みをリストアップし、どのように評価していくかという道筋も必要だと思う。

委員

- 3つにまとまっていて今後の5年間を想像しやすい。
- 「自然再生に参加する、行動する」ための具体的な取り組み例で、案などがあればお聞きしたい。

事務局

- 第二期行動計画を実行する手段として「ワンダグリンド・プロジェクト」を継続していきたい。また、そのために事務局で行うべき取組みはワーキンググループで検討をしていくが、例えば、「フィールドワークショップの参加対象を広げる」など、本日いただいたご意見についても、その中で議論していきたい。

■ 今後の予定について

今後の釧路湿原自然再生協議会と小委員会の予定とワーキンググループの取組み予定について事務局から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。

委員

- ワンダグリンド・プロジェクトの周知活動として3年前に行ったお披露目会みたいなものをまた行うと良い。広い形で広報できるし、取組みの広がりという面からも期待できると考える。

委員長

- ワンダグリンド・プロジェクトの年間報告書が完成した時に、参加者同士の横の連携を深めることを目的に「お披露目会」と称した座談会を開催していた時期がある。その後、ワーキンググループでの検討を経て今は実施されていない。今後再開させるかは、またワーキンググループの検討が必要。